

人口減少対策等研究最終報告書

# 人口減少

を考える。

2015年（平成27年）2月  
人口減少対策等研究グループ

# 1 人口減少って何が問題なの？！

人口減少が問題視されていますが、そもそも人口減少って何が問題なのでしょう？

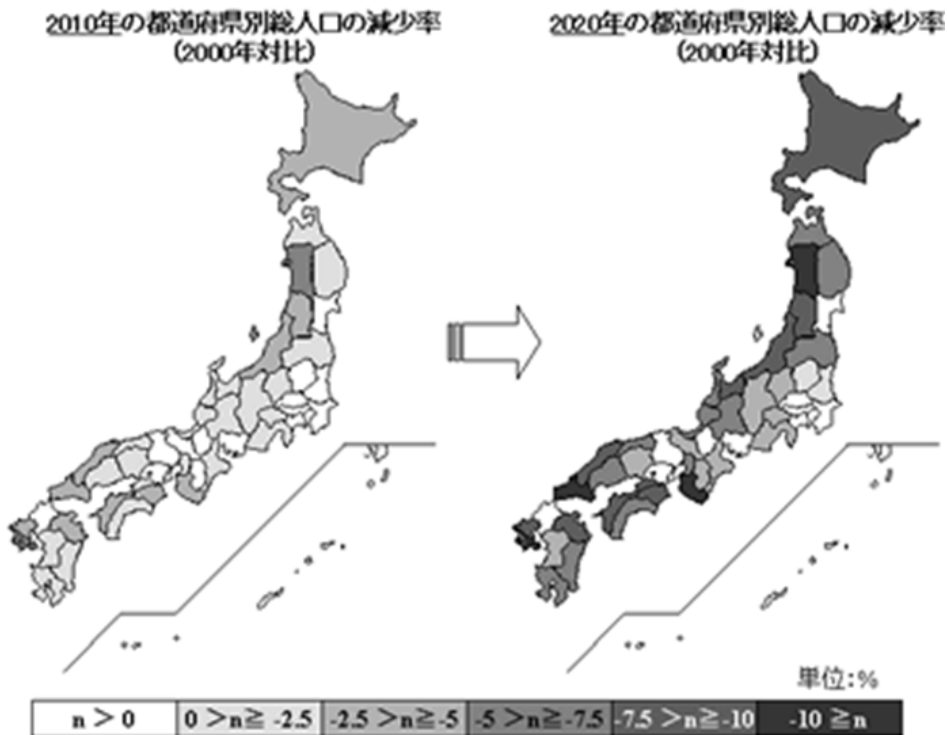
一例として、大阪府では、次のようにまとめられています。

人口の減少は、労働力人口の減少を引き起こし、供給力の減退や消費の減少、それに伴う市場の縮小により、地域経済を衰退させる。また、高齢化の進展により社会福祉費や医療費等が増大し、自治体の行財政基盤へ悪影響を及ぼすだけでなく、地域交流の減退を引き起こし、地域コミュニティが弱体化していくことが考えられる。

これらのことから、人口の減少をいかにして食い止め、人口増加と定住化の促進を目指していくことが、これからの自治体経営には不可欠であり、重視すべき政策ではないかと考える。

**人口減少問題は、「労働力人口の減少による地域経済の衰退、社会保障費の増大という財政面の負のスパイラルを原因に、地域コミュニティの弱体化までを引き起こしてしまう。」**ということになります。

このことは、伊賀市でも同様であり、全国共通の課題であると考えられます。



大阪府ホームページ、株式会社日本総合研究所 コラム「研究員のココロ」、「週刊エコノミスト」2005年11月15日号(毎日新聞社)に掲載されたレポートから一部転用

## 2 対策は？！

では、参考までに、大阪府で考えられている対策を少し覗いてみましょう。

### <人口増加政策>

人口が増加する要因としては、様々な理由があり、また、その理由は一つに絞れるものではない。自然災害が少ない、交通の便が良いといった地勢的な要因や、都心回帰による人の集中といった外的要因とともに、市町村の独自の政策導入といった内的要因もある。これら様々な要因が互いに絡み合い、結果的に人口が増加することになるのであるが、過去の事例から見て、市町村の人口が増加するパターンを大別すると、次の5類型が考えられる。

#### (1)立地条件優越型(大都市型)

企業等の本社・支社や主要公共交通ターミナルが存在、商業施設が集中しているといった就業、商取引、生活の利便性が他の地域より優れているため、人口が集中するもので、首都圏や府内では大阪市などがこれに該当する。

#### (2)大規模開発型

大規模なニュータウン、マンション等の開発により、多くの住施設が提供されたため人口が増えたもので、近年の府内では茨木市、箕面市、和泉市、島本町などが該当する。

#### (3)企業等施設誘致型

企業、大病院、教育施設、高速道路、駅などの誘致による活性化、企業誘致による雇用創出、施設誘致によって流入人口が増えることによる商業の活性化、利便性の向上による地場産業の活性化など、結果的に人口増に結びつくもので、三重県の亀山市、茨城県のつくば市などが該当する。

#### (4)地域資産活用型

地域にある観光資産や地場産業等の活性化により、人口増に結びついたもので、古くは泉州地域の繊維産業などが該当する。

#### (5)人口増加政策導入型

シティセールス戦略(まちの魅力を内外にPRし、人や企業等に関心を持ってもらうことにより誘致や定着を図ることから、(3)や(4)と関連するが政策導入事例として(5)に入れた。)や少子高齢化対策など、出生数、転入増加施策や転出抑制施策によるもの。

そして、このようにまとめられています。

住民が「このまま住み続けたい」と思うような定住化を促す政策が必要となるため、どの類型を市町村が目指そうとも、最終的にはこの(5)の型に向けて、「住みたい、住み続けたい」と思ってもらえる政策を立案することが必要となる。

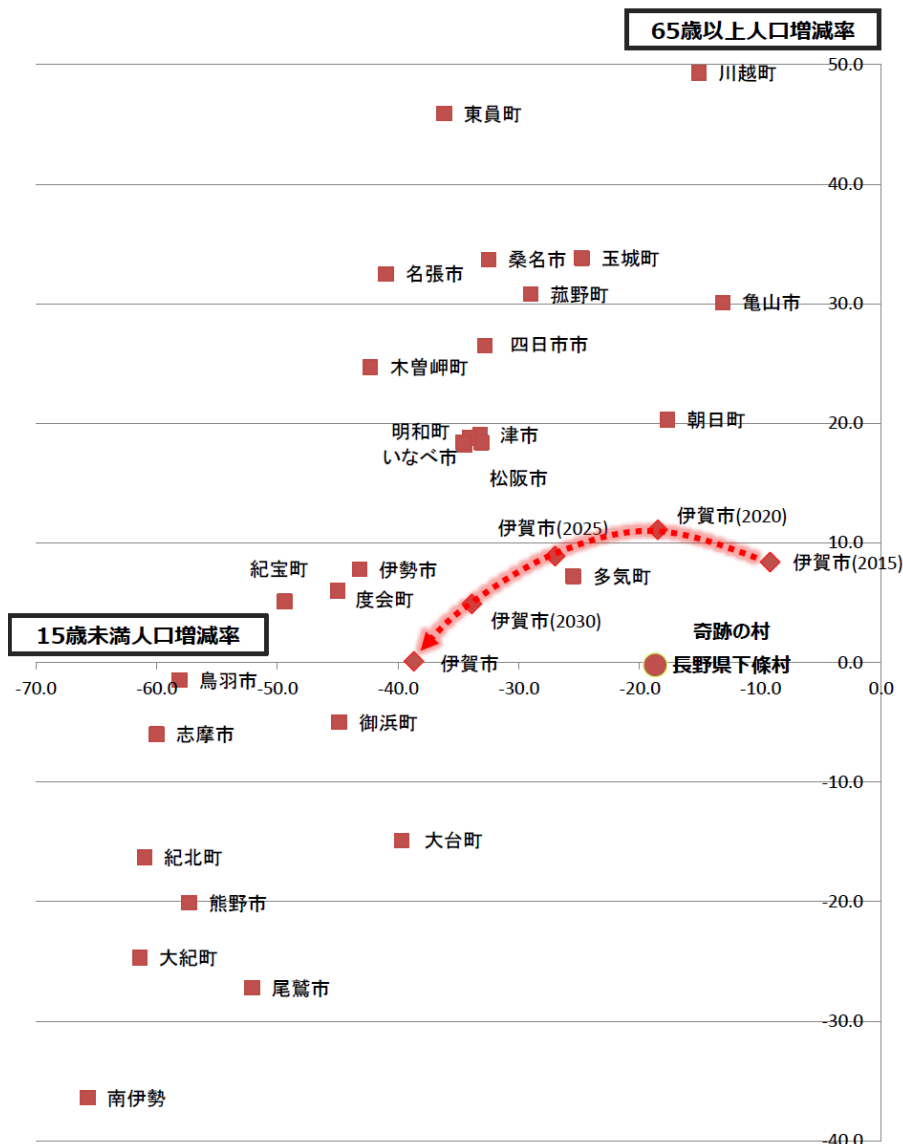
# 3-1 実は、伊賀市は・・・

人口減少を問題視している原因が、「労働力人口の減少による地域経済の衰退、社会保障費の増大という財政面の負のスパイラルを原因に、地域コミュニティの弱体化までを引き起こしてしまう。」ということは・・・

**人口減少問題の本質は、「今までに経験したことのないような、老年・生産年齢・年少の人口構造になることで、財政面、地域コミュニティなどに大きな影響を及ぼす」こと**と考えます。

高齢者と年少の人口増減率の動向から見た伊賀市の姿を見ていきましょう。

## 高齢者人口・年少人口の増減率【2010-2035】



## 3-2 実は、伊賀市は・・・

2010年（平成22年）から2035年（平成47年）の高齢人口と年少人口の増減率の分析から、当市の高齢者数の増減率は2020年頃をピークに下降傾向となり、2035年には増減率0%になることが分かりました。

**「奇跡の村」**と呼ばれる長野県下条村と同様の水準になると推測されます。

ただ、年少人口の増減率は今後ますます下降し、2035年には2010年から約40%の減少率と推測されており、少子化対策をいち早く行うことが、急激な人口構造バランスの変化を食い止める方策であると考えます。

すなわち、**若い世代が伊賀市に住み続け、かつ、この伊賀市で子どもを産み、育てたいと思える社会づくり、地域づくりが当市の絶対的な対策になる**ということです。

日本創成会議では、2040年に20～39歳の女性の数が全国の約半数の市区町村で5割以上減ることなどにより消滅するおそれがあると言われており、この点については当市も危機感を持つ必要があります。

ただ、他の市区町村（全国、県の地方都市）にない**「伊賀市の強み」は、極めて安定した高齢者人口の増減率**です。

実は、伊賀市は再生可能なポテンシャル（可能性としてもつ力）のあるまちなんです。  
ただ、この潜在的な力を見える力に変えていくことが大切です。

**伊賀市は、「奇跡の市」になれる可能性がある！**ということです。

### ■長野県下条村（奇跡の村）

村として早くから少子化対策に乗り出し、全国有数の高い出生率を誇り、それを維持し続けている。  
たとえば、2011年の合計特殊出生率では、全国平均が1.39人なのに対し、下条村は1.92人（村試算）を記録している。

厚生労働省が公表した2040年時点での地域別将来推計人口でも、全国のほとんどの自治体が大幅な減少を推計された中で、小幅な減少率に留まっている。

下条村は、国の補助制度などに安易に飛びつかず、地元の実情に合った施策を自らの創意工夫で編み出し、それを住民と共に汗を流して実行してきたことの結果と言われている。

こうしたことから、いつしか、人口減に苦しむ自治体関係者などが下条村を「奇跡の村」と呼ぶようになり、その秘訣を学ぼうと、列をなして下条村に行政視察するようになっている。

## 4-1 住み続けたいまちとは？！

約9万6千人の地方都市である伊賀市に住み続けたいでは、どのように考えていくことが良いのでしょうか。

人口減少対策等研究グループでは、本研究のポイントとされている、

「子育て支援」、「子育て世帯の職場環境」、「出産支援」、「女性の社会参画」、「子どもの教育環境」などの視点とあわせて、「人口減少」をどのようにとらまえ、どのような社会づくりをめざすのかについてKJ法を用いて整理しました。

KJ法により生み出されたキーワードと要素は次のとおりです。



## 4-2 住み続けたいまちとは？！

若い世代が伊賀市に住み続け、かつ、この伊賀市で子どもを産み、育てたいと思える伊賀市にするためには、どうしたらいいのか???

そうだっ！

これまでの既成概念をとっぴらい、“こんなプロジェクトがあったら、飛び込んでみたい！”と思えるようなプロジェクトを考えよう！！

伊賀を愛していることを忘れずに…

“何か分からんけど、気持ちええ〜”

“伊賀って、おもろいところやんか〜”

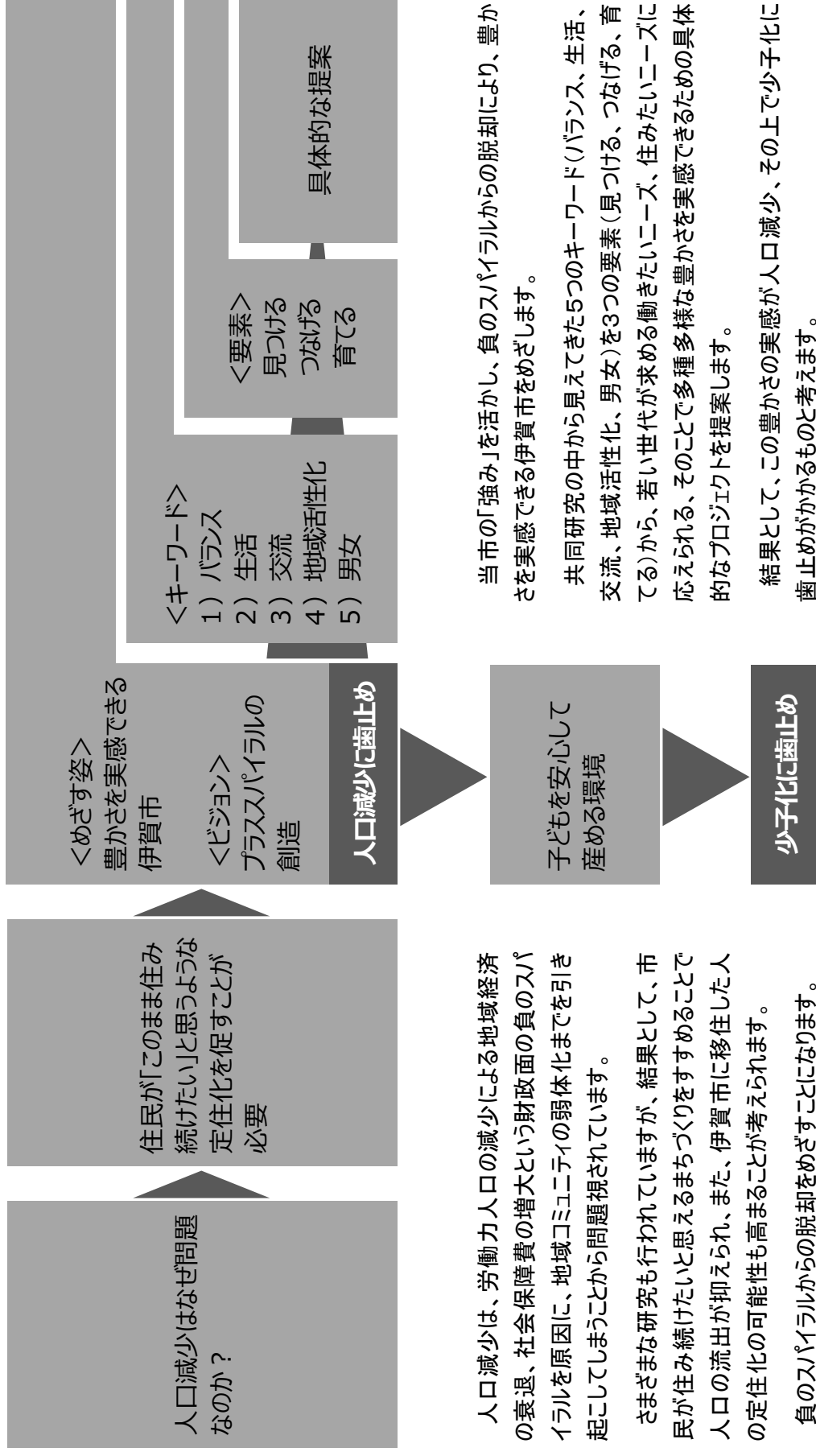
“俺でもできるかも知れへんな〜”

**そんな伊賀市を実現させるためのプロジェクトを考えました。**

バカげているかもしれませんが、実は、このことが大切なんだと信じて、真剣に考えました。

それでは、若い世代が“気持ちええ”と思える**プロジェクト**を見てください。

# 人口減少対策等研究はこのようなプロセスで見出しました



＜めざす姿＞  
豊かさを実感できる伊賀市

＜ビジョン＞  
プラススパイラルの創造

人口減少に歯止め

住民が「このまま住み続けたい」と思うような定住化を促すことが必要

人口減少はなぜ問題なのか？

子どもを安心して産める環境

少子化に歯止め

人口減少は、労働力人口の減少による地域経済の衰退、社会保障費の増大という財政面の負のスパイラルを原因に、地域コミュニティの弱体化までを引き起こしてしまっていることから問題視されています。

さまざまな研究も行われていますが、結果として、市民が住み続けたいと思えるまちづくりをすすめることで人口の流出が抑えられ、また、伊賀市に移住した人の定住化の可能性も高まることが考えられます。

負のスパイラルからの脱却をめざすこととなります。

当市の「強み」を活かし、負のスパイラルからの脱却により、豊かさを実感できる伊賀市をめざします。

共同研究の中から見えてきた5つのキーワード(バランス、生活、交流、地域活性化、男女)を3つの要素(見つける、つなげる、育てる)から、若い世代が求める働きたいニーズ、住みたいニーズに応えられる、そのことで多種多様な豊かさを実感できるための具体的なプロジェクトを提案します。

結果として、この豊かさの実感が人口減少、その上で少子化に歯止めがかかると考えます。

＜キーワード＞  
1) バランス  
2) 生活  
3) 交流  
4) 地域活性化  
5) 男女

＜要素＞  
見つける  
つなげる  
育てる

具体的な提案

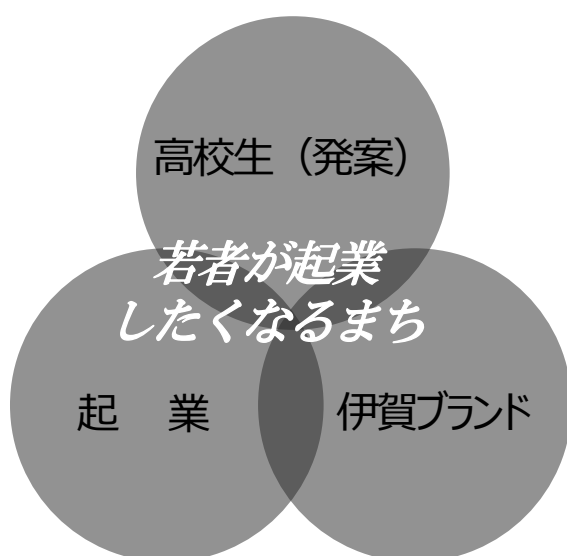


## 5-1 提案します！

### プロジェクト01

- プロジェクトの性格：長期的プロジェクト
- 人口減少の要因：伊賀市には若者が求める仕事がない（需要と供給のアンバランス）→若者が伊賀に住まない→人口減少、少子化
- プロジェクトの概要：求める仕事がないなら、したい仕事が起こせる環境をつくる→ベンチャー起業支援（高校生の発案活用、伊賀ブランド活用）→若者が本気で伊賀に住む→安定した生活 →結婚 →出産 →人口減少、少子化に歯止め

### 変えない「文化」と新たな「起業」のコラボ＝“不易流行”の精神



#### ○「企業誘致」から「起業誘致」へ

大学卒業後、伊賀市に戻りたくなる、また伊賀市で働きたくなる環境を整えることを提案します。（起業家支援、インフラ整備等）

#### ○変えない文化と斬新なアイデアのコラボ

伊賀市の、文化、産業など多くの伊賀ブランドがまだまだイケると考えます。

高校生の既成概念にとらわれない発想と伊賀ブランドのコラボが起業家によってビジネス化されることで、次世代の起業家を育てます。

#### ○「手当」から「投資」による対策へ

「手当」による人口減少対策に、将来を見据えた新たな「投資」による人口減少対策の導入を提案します。

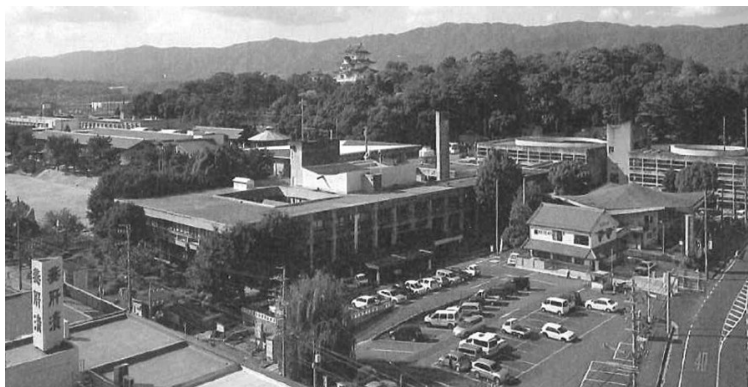
### 市役所南庁舎を“次世代情報拠点”に！

～図書館と若者のビジネス拠点の複合化で、伊賀市を日本の新たなシリコンバレーへ～

○市街地のど真ん中にベンチャー起業拠点を置き、市街地の賑わい、情報、地域・地域経済の活性化を促します。

○起業家が集まることで、町家ビジネスへの発展が期待できます。

○本気で伊賀市で住む若者が増え、人口構成バランスの安定した「奇跡の市」に一步近づきます。



## 5-2 提案します！

### プロジェクト02

- プロジェクトの性格：短期・中期的プロジェクト
- 人口減少の要因：都会に憧れて若者が出て行く（伊賀のいいところ・魅力に気づいていない！）  
→人口減少、少子化
- プロジェクトの概要：①田舎のイメージ（ない？・ダサい？・不便？） →“伊賀市は“都会田舎”をめざします宣言
- ②都会的な視点（カッコいい・おしゃれ・便利）で伊賀市の魅力を斬る →伊賀をプロデュースし起業と結びつける →“粋”なまちになり、雇用も生まれ、伊賀（田舎）が好きになり、若者が定住するまちになる →生活が安定し、結婚・出産しやすいまちになる ⇒人口減少、少子化に歯止め

伊賀は“都会田舎” 粋に楽しむ！



## 5-3 提案します！

### プロジェクト03

- プロジェクトの性格：短期的プロジェクト
- 人口減少の要因：結婚と同時に退職のイメージ、子育て中は働きにくいイメージ →それなら仕事は都市圏で！ →伊賀市の独身女性が減少
- プロジェクトの概要：若い女性がやりがいのある仕事に就き、結婚し、子育てしながら仕事ができる環境づくり（女性の希望と能力を活かした企業づくり）→すべての男女（ひと）が頑張れる環境づくり →子育て・仕事を頑張るママの癒しの場づくり応援 →女性の仕事に対するやりがい感上昇→若い女性が伊賀に住む →結婚 →出産 →人口減少、少子化に歯止め

“あなたのプライド” が伊賀市をかえる！！

**女性が伊賀ブランドを支える！  
あなたのプライドが伊賀市をかえる！**

○“プライド”っていう言葉、使い方によっては、みんなが気持ちよくなる良い言葉ですね。

- 男性を癒す場はたくさんあるけど、女性を癒す場は少ないですか？
- 頑張る女性が癒される時間と場所を提供するあなたを応援します！

**女性の癒しの場づくり**

**“女性の匠”づくり**

- 伊賀ブランドの世界に多くの“女性の匠”を！
- “匠”は、頑張るすべての男女（ひと）が呼ばれる共通の言葉です。

**男女の活躍**

○窮屈なプライドを脱ぎ捨てるあなたを応援します！

**意識改革**

- 女性が活躍する空気をつくるではありません！
- 女性はいつでも頑張り、活躍しています！
- あなたのプライドが邪魔していませんか？

### 頑張る女性を癒す“食堂&カフェ”

子ども連れでも、気兼ねなく食事やティータイムがとれるお店があったらいいな～。  
“子育てを頑張っているママ・仕事を頑張っているママ”と“高校生”が協働して、店舗の企画運営するプロジェクトを支援することを提案します。

将来のパパ・ママが、子育てに関心を持てるカフェ！いいですね～



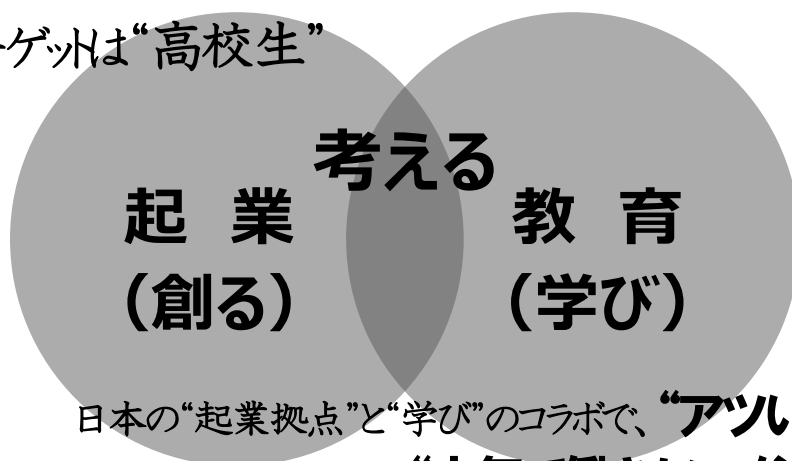
## 5-4 提案します！

### プロジェクト04

- プロジェクトの性格：長期的プロジェクト
- 人口減少の要因：小中学生の郷土愛度は高いが… →大学進学で伊賀市を離れる →都市圏で働きたい仕事につくための学びになっている →伊賀市に戻らない
- プロジェクトの概要：起業家（創造家、イノベーション家）と教育とのコラボレーション →創造人材の育成・伊賀（日本の起業拠点）で働きたい環境づくり →UJIターン現象 →したい仕事につく →生活が安定し、結婚・出産しやすいまちになる ⇒人口減少、少子化に歯止め

学び・考え・創る次世代育成！ ～本気の次世代づくり～

ターゲットは“高校生”



日本の“起業拠点”と“学び”のコラボで、“アツいIGA”づくり！

伊賀で“本気で働きたい・住みたい”次世代づくり

#### 学び・考え・創る次世代づくり

- 家庭主体の次世代づくり
- 伊賀のホンモノを知り、伊賀を誇りに思える次世代づくり
- 考え出す（創造する、イノベーションする）次世代づくり
- 4年後（大学卒業後）を見据えた高校生への戦略的営業

IGAで働くための大学へ勉強しに行くねん！

頑張れば、わたしも伊賀の高校いけるかなあ～

伊賀なら何かできる！

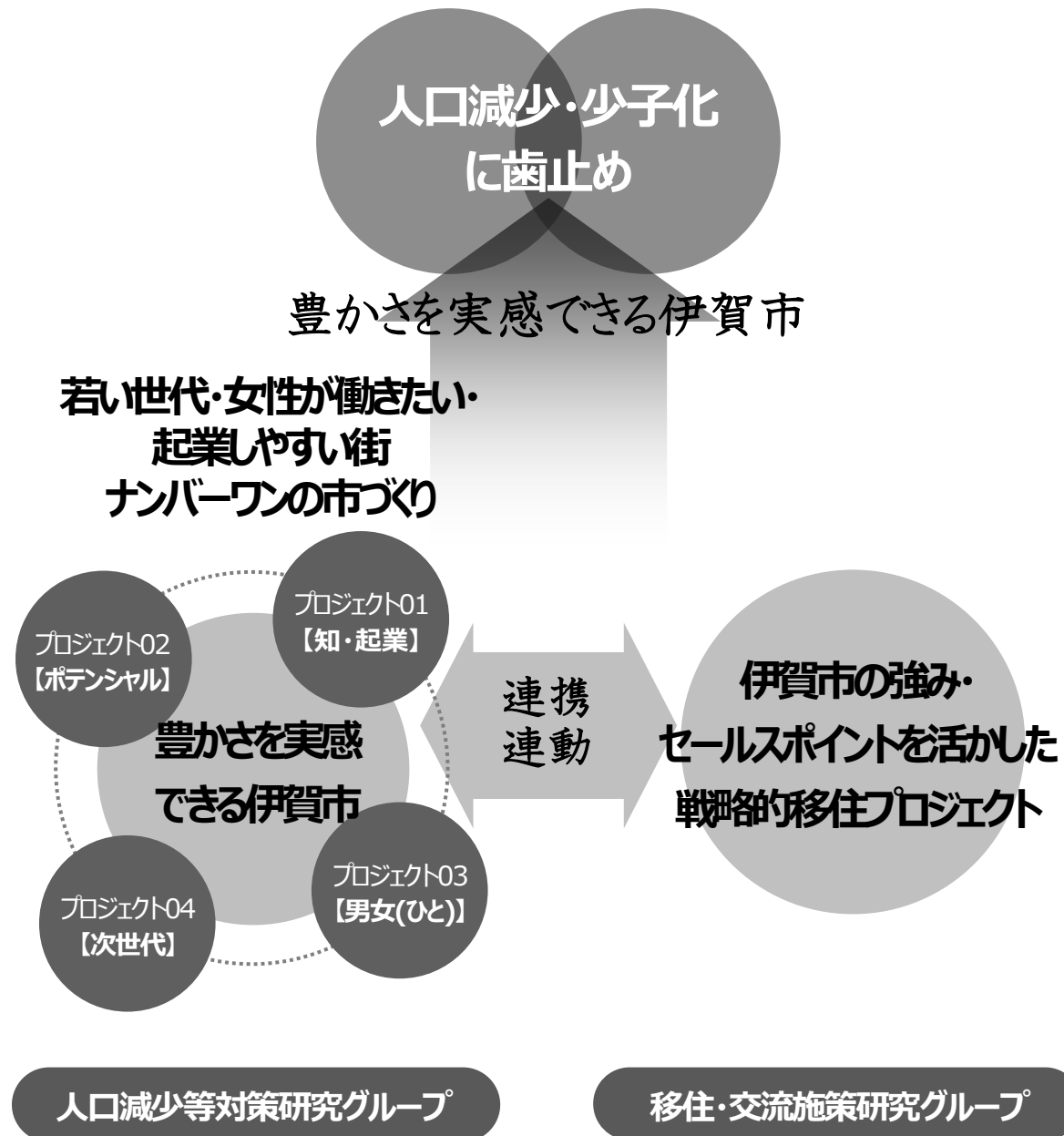
そんな声が聞こえて来るような気がしませんか？！

## 6 移住・交流施策研究グループとの関係

人口減少対策等を考えていく中においては、同様に設置されている「移住・交流施策研究グループ」との深い関わりがあります。

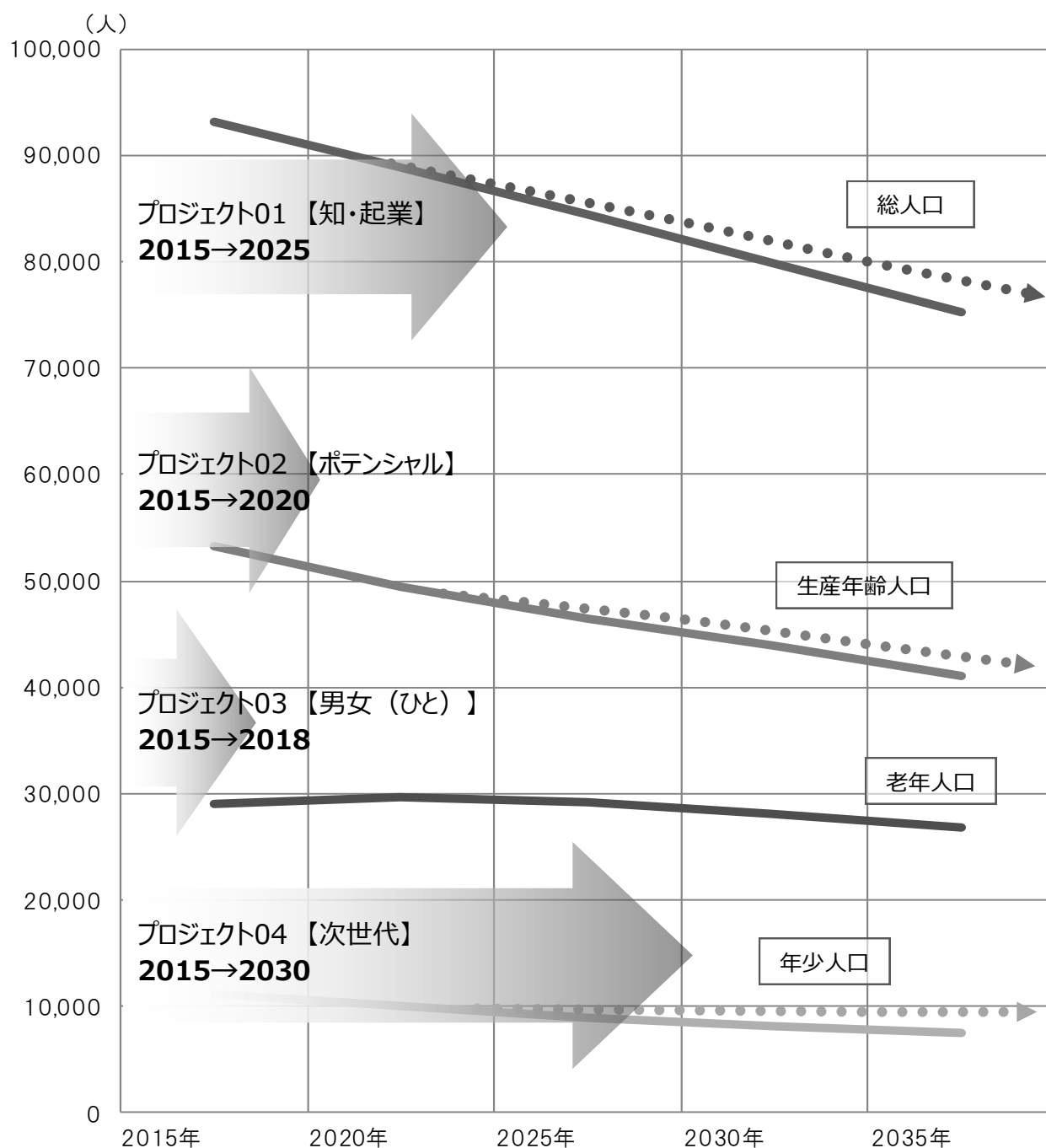
「3-1 実は伊賀市は・・・」で見えてきた、伊賀市の強み、そして伊賀市が持つポテンシャルは2つの研究グループで共通する「伊賀市の宝」であり、豊かさを実感できる伊賀市づくりには、「人口減少対策等研究グループ」と「移住・交流施策研究グループ」が検討するプロジェクトの連携が重要です。

人口減少対策、移住・交流施策の2つの共同研究グループのプロジェクトを連携・連動させた施策展開が重要になるということです。



# 7 いつするの？ どうなるの？

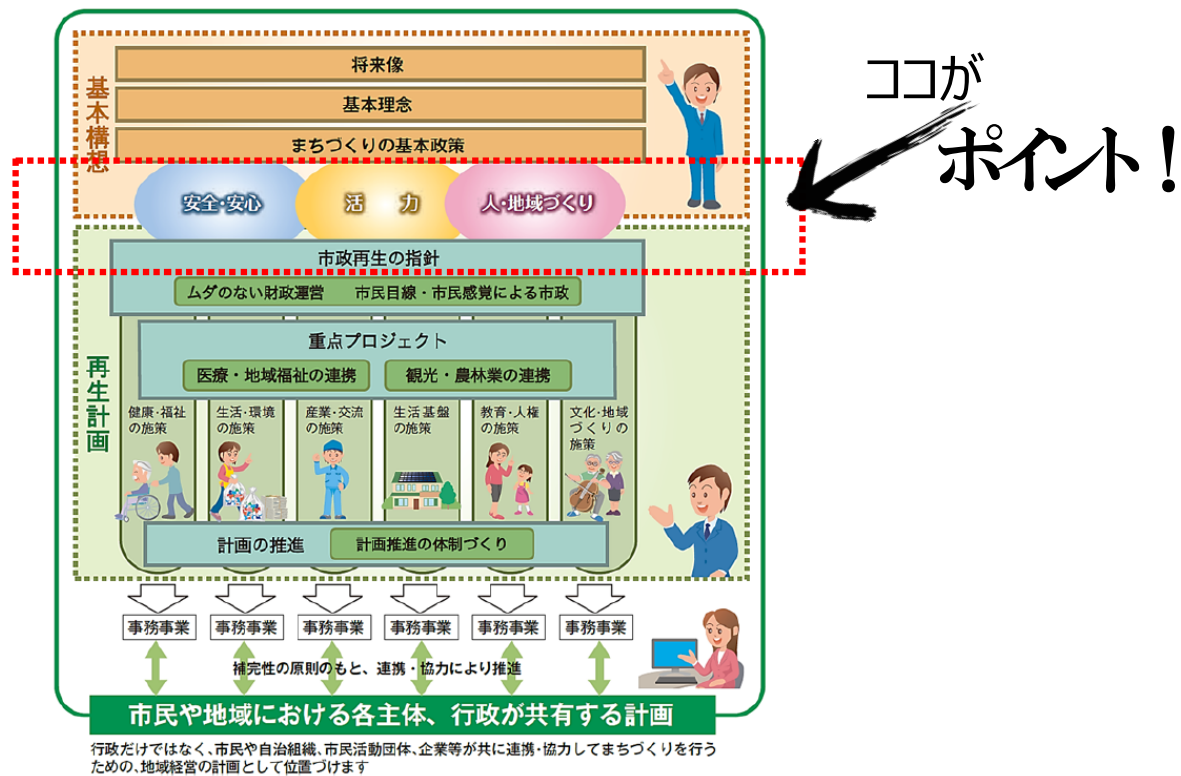
## “プロジェクト期間”と“人口推移”と“効果（イメージ）”



※人口推移（プロジェクト実施による効果）の試算は、「日本の将来推計人口（平成25年3月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）を加工して作成しています。

# 8 位置づけは？！

いくら良い計画・モノを持っていても、戦略がないと・・・

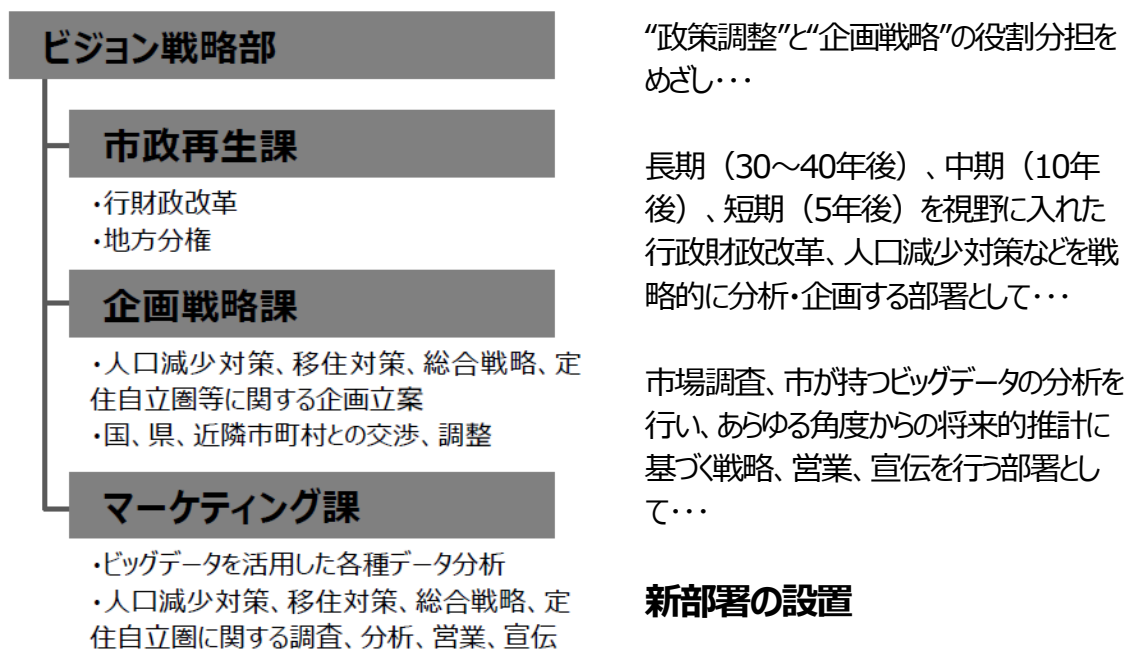


しかし！  
どこにも負けない“戦略”で  
プロジェクトを動かすための  
“何か”がほしい！

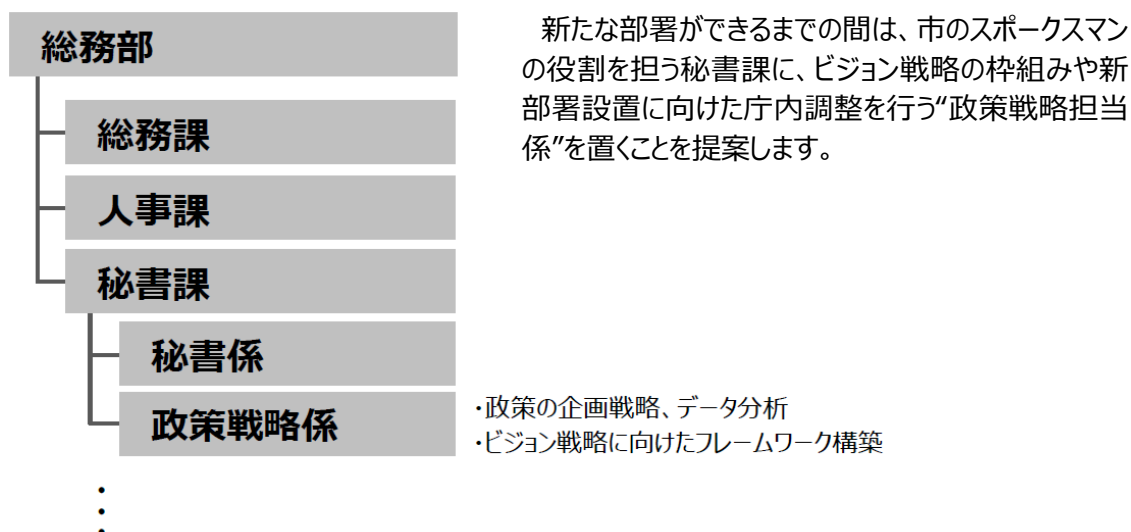
政策調整（企画振興部）				
健康福祉施策	生活環境施策	産業交流施策	教育人権施策	文化地域施策
施策推進（各関係担当部）				

## 9 そこで、もう一つ提案です！

人口減少対策、移住対策など、対策期間、検討部局が複雑にからみあうプロジェクトを、戦略的にかつ合理的・効率的に行うため、市役所全体に横ぐしをさす新たな部署の設置を提案します。



簡単に言えば…  
市役所の中に“戦略部署”をつくる！ということです。





そしてっ！

さいごに…

私たちが考える、人口減少問題対策とは…

# 若い世代、

人口減少問題、少子化問題への対策は「子育て支援」だけではありませんでした…

# 女性が

子育て支援策は短・中期的視点での対策として、積極的に取り組む必要がありますが、それ以上に、長期的視点の取り組みが必要なんです。

# 働きたい街、起業しやすい街

# ナンバーワンの市

若い世代が伊賀に住み、子どもを産みたいと思える街をつくっていくことが必要だということです。

# になる「市」です。

知恵のない市はつぶれていく時代…

私たちはつぶれない街をつくりたい。

私たちは“都会田舎をめざします”。

## 伊賀の良さを子育てに活かして欲しい

伊賀に住んでいるお母さんたちが、伊賀の良さをもっと子育てに活かして欲しい。生かせる場が欲しい。そんな思いを常に抱いてきました。

一度離れてみて伊賀の良さに気付くこともあるのです。

今回のプロジェクトは、子育てしている私自身も仕事に活かしていける、良い機会だったと思っています。

## 未来の伊賀市を描く仕事ができて嬉しかった

私の役所志望動機は、「伊賀の長所である伝統、文化を大切にし、若者がもつ好感を持つ輝ける街づくりがしたい」でした。

今回このグループに参画し、未来の伊賀市を思い描くというやりがいある仕事に携わることができ、嬉しく思っています。

これからも、子を持つ母親の感性を活かし、役に立てるよう努力したいです。

## 新しい施策を“創造”する楽しさを実感した

共同研究グループに参加した当初は、「人口減少対策」というあまりにも大きなテーマにビビっていたのですが、皆さんと「数年後・数十年後の伊賀市を“想像”しながら新しい施策を“創造”してゆく」楽しさを体験できたことは、自身の仕事に対する姿勢にも良い影響を与えてくれたと思います。ありがとうございました。



## がんばっている若者を応援していきたい

「人口減少対策」ときいても課題が大きく、関連付けて考えることがなかなかできませんでしたが、具体的なプロジェクトが出だすとなんだか楽しくなってきました。

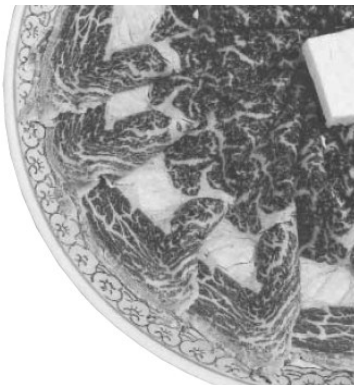
自分で起業することはできなくても、今がんばっている若者を応援することはできるのでまずはそこからしていきたいです。



# 共同研究メンバーのひとりごと

## 学生が伊賀市に魅力を感じるまちを描きたい

人口減少対策＝少子化対策、というふうには考えていたが、このプロジェクトの会議を通して、若い世代の人口が増えること、すなわち今伊賀市に住む小中学生・高校生が伊賀市に魅力を感じ、将来も住み続けることを自然に思い描けるようなまちにしたいといけないうんじゃなくかと思えるようになった。



## 若者が住み続けたい伊賀市…明るい気持ち

「若い世代が住み続けたいところ、伊賀市」そう考えると前向きな明るい気持ちになれます。

実現は簡単なことではないですが、できないことでもないと思います。

伊賀市にUターン・ターンしてきた知識人・その道の経験者の方の協力を得ることも良いような気がします。

## 伊賀は「都会田舎」

伊賀は“都会田舎”でいいところやなあ。いつも自分の子供に言っています。一度は都会に憧れて出て行っても、将来的には戻ってきて欲しい。

伊賀のいいところを、そんな想いを、皆さんは子供たちに伝えていらっしゃいますか？伊賀は本当に住みやすくていいところ。でも現実には仕事がない。そんな想いからプロジェクト2を考えました。

## 人口減少は不安だけでなく未来のあるもの

人口減少対策＝子育て支援施策と思い込んで共同研究に参加しましたが、それだけではないことに気づかされ、広い視野を持つ必要性を感じました。

人口減少は決して不安なことばかりではなく、これから伊賀のまちを創っていく若い人たちの可能性を引き出す、未来のあるものだと感じています。

## 伊賀の良さを子育てに活かして欲しい

今住んでいる人(家族)、これから住む人(家族)、すべての人(家族)が少しでも住み良いと思えること(施策)を、些細なことでもいいので1つ実現できればと思います。



## 人口減少もプラスに！発想の転換を大切に！

私自身、伊賀から離れたことがないために「外」から見たことがありません。今回この研究グループのおかげで、改めて伊賀の持ち味や強み・弱みを発見できました。人口減少もプラスにとらえ、「発想の転換」を大事にしながら、誰もが過ごしやすい市となるよう、職員として一市民としてできることを探していきたいです。



## 思いやりのあるまちづくりが人口維持につながる

日々、市民の方と接する中で『その人らしく』暮らせるまちにしていきたいと思い参加しました。

思いやりのあるまちづくり＝魅力ある伊賀市＝人口維持・増加につながるのではと思いました。

事業でなかなか参加できず、すみませんでした。

## 魅力的な伊賀市をつつていきたい！

人口減少という「少子化対策」「子育て支援」と考えていましたが、研究グループに参加しているんな課の職員と意見交換することで、今までとは違った視点で考えることができました。

若い世代が伊賀市を好きになり、ずっと住み続けたいと思えるような『魅力的な伊賀市』をつつていきたいです。



## 私の「まち」にある宝物を再発見したい

私は、伊賀で生まれ、伊賀で育ちました。だから、伊賀が大好きです。こんな素敵な「まち」にあるたくさんの宝物を、私も再発見したい。純粋にその活動に関わりたくて、共同研究に参加しました。

素敵な「伊賀市」がイメージできたので、とても楽しみにしています。



## 伊賀市の良さや課題を考える機会となった

このプロジェクトに参加させていただいて、あらためて伊賀市の良さや課題を考える機会とさせていただきます。

自然が豊かで生活しやすく、必要なときには都会にも比較的短時間で出向ける伊賀の特徴をいかしたまちづくりを今後も考えていきたいと思えます。

## とにかく、一歩踏み出しましょ！

伊賀市は、想像するよりも強い街になれる可能性があるんだと実感しました。

そして、人口減少問題って、こんなに奥が深いものだとは思いませんでした。

とにかく一歩踏み出しましょ！

時間は止まってくれません！

# 人口減少を考える！

## 人口減少対策等研究グループ

中岡久美（リーダー） 健康福祉部医療福祉政策課副参事  
植田充芳（サブリーダー） 健康福祉部医療福祉政策課主任  
本城 覚（サブリーダー） 健康福祉部医療福祉政策課主任  
西岡千秋 人権生活環境部人権政策・男女共同参画課主査  
五百田佳子 健康福祉部こども家庭課主幹兼こども家庭係長  
中村有日子 健康福祉部福祉相談調整課主任  
山本裕美子 健康福祉部健康推進課主任  
中田光裕 教育委員会事務局教育総務課主任  
増田 博 教育委員会事務局学校教育課主幹兼指導教職員係長  
森 義尚 教育委員会事務局生涯学習課主幹兼生涯学習係長  
高田千恵 伊賀支所住民福祉課主幹  
森 美智子 島ヶ原支所住民福祉課主幹  
川口美香 阿山支所住民福祉課（健康推進課）主査  
橋本奈緒子 大山田支所住民福祉課主任  
福森修司 青山支所住民福祉課主査